

目指す学校像	保護者・地域から信頼される学校 ・明るいあいさつと笑顔があふれる学校 ・落ち着いた環境の中で生徒の主体性を育み、成長を実感できる学校 ・互いの良さを認め合い、生徒、教職員の温かな心の触れ合いを通して共に切磋琢磨しあう学校 ・危機管理、整理、整頓、整備が行き届き、安全でかつ安心して過ごせる学校 ・生徒、保護者、地域、教職員が一体となってつくりあげる学校
--------	--

重点目標	1 主体的、対話的で深い学びの実現 2 生徒が主体となる学校づくりと誰一人取り残さない教育の実現 3 保護者・地域に信頼される開かれた学校づくりの推進 4 全教職員で主体的に取り組む研修の推進
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成 (8割以上)
成	B	概ね達成 (6割以上)
度	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標					年度評価		実施日 令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、全国、県、市平均と比べ、学習の定着度は良好な結果である。 ○市の学習状況調査の質問紙で「授業でのPC・タブレットなどのICT機器の活用度」の項目が市の平均よりも低い。 ○授業の様子ですぐに正答を知りたがる傾向が強く、活用することに課題がある。 (課題) ○学習したことを活用することや深く学ぼうとすることに課題がある。 ○一人一台端末を効果的に活用した授業改善。 ○TPC修理依頼台数が約30台以上ある。	ICTを効果的に活用した主体的で対話的な深い学びの実現	① 外部講師を招聘して「深い学び」について学び、実践・検証し、年間を通じて授業改善に取り組む。 ② 管理職が積極的に授業参観し、指導助言を行う。 ③ 教科会を定期的に開き、ICTを活用した授業や深い学びについて話し合い、授業改善を図る。 ④ 教員同士で授業公開をし、授業改善に向けた研修を実施する。 ⑤ タブレット活用のためのルールを徹底し、破損等の事故を減らす。	① 外部講師を招聘し、年2回以上の研修会を実施できたか ② 学びの指標アンケートの「主体的な学び」「探究的な学び」「ICT活用」「基礎スキル」の項目の校内平均の数値の上昇(R5年度比較)。 ③ 学校評価保護者アンケート「学校は工夫し、わかりやすい授業をしている」の項目で肯定的な回答数値が上昇したか。 ④ タブレット端末の破損事故等の減少と修理危機の速やかな回収がなされたか。					
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国・市平均を上回った。 ○市の学力状況調査質問紙において、「自分には、よいところがあると思いますか」の質問や「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合が、市平均を下回る学年があった。 ○様々な要因から教室へ入れない、登校時刻に登校ができない生徒がいる。 (課題) ○自分たちの学校生活の向上や安全や安心を保つための生徒主体の取り組み ○生徒会・学級活動の充実 ○校内教育相談体制の充実と外部機関との連携	・生徒の主体的な活動を通して、自己肯定感や自己有用感を高める。 ・誰一人取り残さない教育の実現	① 生徒の主体性を伸ばす授業改善 ② 生徒主体で取り組む学校行事や委員会活動の推進 ③ 見守り、認め、励ます教職員集団の構築を図る。 ④ 自立、共生、錬成を兼ね備えた生徒の育成。 ⑤ あいさつ運動の推進	① 市の学力状況調査質問紙において、「自分には、よいところがあると思いますか」の質問で肯定的な回答をした生徒の割合の上昇。 ② 市の学習状況調査質問紙において、「将来の夢や目標を持っていますか」の質問で肯定的な回答をした生徒の割合の上昇。					
3	<現状> ○昨年度、学校運営協議会で学校の課題について熟議を行いながら、地域・保護者と学校で、生徒の成長を支えていくことを確認した。 ○PTA本部会の尽力で、様々な学校行事やPTA活動を円滑に行うことができた。 ○学校だよりやHPを活用して、生徒や学校の様子を保護者、地域に届けるように努めた。 <課題> ○地域や保護者等に学校の教育活動を参観する機会を昨年度より増やす。 ○学校や生徒の様子だけでなく、保護者、地域にとって有効的な情報が得られるようにHPや学校だよりを工夫する。 ○生徒が地域ボランティアやイベントに参加できるように情報発信を工夫する。	・地域、家庭と学校の温かな交流が図れる機会づくり ・積極的な情報の収集と発信を通した、開かれた学校づくり	① 学校運営協議会に生徒が参加する機会を1回以上設定する。 ② 地域ボランティア活動やイベントの情報を収集し、集会等の中で生徒に積極的に発信し参加を促す。 ③ PTAと協力し、保護者ボランティア活動を活性化させる。 ④ 小学校とのあいさつ運動の交流	① 学校運営協議会に生徒を参加させる機会を年度内に1回以上設定することができたか。 ② 小学校とあいさつ運動の交流を図ることができたか ③ 生徒アンケートで「地域のイベントやボランティア活動に参加したことがある」の割合が70%以上。					
4	<現状> ○昨年度、3年間の小・中一貫教育の研究委嘱を終え、本年度は新研究として「深い学び」について学校課題として進めていく。 ○教職員の研修意欲は高い。 <課題> ○研究を学校全体で行っていくための仕組みや計画をしっかりと築くこと。 ○教職員各々のニーズに合った研修機会の設定や若手教員育成の研修機会を設けること。	・学校全体で協働して高め合える研究の推進 ・教職員それぞれの課題にあった研修の実施	① 学校全体で研修に取り組めるように年度当初に計画を立て、教職員に見通しを持たせる。 ② 研究主任を中核とし、教職員のボトムアップで創り上げる学校研究を展開する。 ③ 当初面談で研修受講の奨励をし、管理職が定期的に確認する。 ④ 教職員のニーズに合わせた研修機会の設定。	① 学校評価教職員アンケートで「校内研修の成果や課題が教育活動の改善に生かされた」の肯定的な回答を上昇させる。 ② 学校課題研修での外部講師の2回以上、招集する。 ③ 学校課題に即した、一人一回以上の授業実践。 ④ 年間計画以外の任意研修を3回以上設定する。					